

農協だより

2021.1月  
No.595

たこいき

達賀新年

青年部  
食育事業  
8ページ～



青年部  
小学校酪農体験事業  
8ページ～





# 「第9次地域農業振興計画」の最終年を迎える 令和3年が計画達成の輝かしい一年である事を願つて

大樹町農業協同組合

代表理事組合長 坂 井 正 喜

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より農協事業に対し、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

## 役 員

専務理事 太田 福司

理事 西川 久雄  
理事 山下 善一

理事 水野 義博

理事 事畔木 主  
理事 山下 益雄

理事 事山下 益雄

さて昨年を振り返りますと、やはり真っ先に出てくる出来事が、日本はもとより世界各国に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症ではないでしょうか。国内では緊急事態宣言により、休業、休校等を余儀なくされ、強いては国内外の人や物の移動制限によって、農業分野においては外食産業を始め、各種イベント等の中止、インバウンド需要の激減により、乳製品・牛肉・烟作物等の在庫品の積み増しや、価格の低迷といった影響が深刻化しました。反面、巣ごもり需要といわれる家庭での消費が増え、改めて国産農畜産物の重要性や安全・安心な食料の供給といった「食」に対する意識の変化が現れることとなりました。また、今もなお、収束の目処が見えない状況にあり、日本農業における影響や地域経済の動向も危惧されますが、生産基盤の更なる強化、協同の力を更に結集し、この難局を乗り越えて参りましょう。

このような状況の中、昨年の農畜産物の生産をみますと、3月の大雪により春作業が遅れ、春先の低温と雨量不足により干ばつ傾向で春耕を向かえることとなりました。6月中旬からは、曇天、降雨が連日となり、一番・二番草の収穫に影響を受け、収量・品質ともに例年を下回る状況となりましたが、テンコーンにおいては倒伏がなく、良質粗飼料が確保できましたことは、本年の生産に貢献されたものと安堵しております。



# 年頭のご挨拶

す。生乳生産は、前年比で4・4%を上回り組勘年度計画114、930tに対しまして、115、753tの実績となりました。これも偏に、生産者各位の日々のご努力の賜と、深く敬意を表するところで御座います。

一方、畑作物におきましても、日照不足や天候不順の影響により、小麦は製品7・6俵、馬鈴しょは塊茎着数の低下での大玉傾向となり、平年を下回る収量となりました。てん菜は平年を上回る収量となりましたが低糖分傾向、小豆では小粒傾向、品質低下を招いたほか、単価低迷といった年となり、改めて天候を相手にした農業の難しさを痛感する一年となりました。

さて、国内外における近年の農業情勢をみると、TPP11を始めとした貿易協定による輸入農畜産物の関税撤廃・削減といった一連の措置が、着実にその機をうかがっているように思われます。更には、RCEPと呼ばれる日中韓、ASEANとの包括的経済連携による協定の合意が行われました。政府は国内農業への影響はないとの見解を示していますが、到底、楽観視できるものではなく、「自由貿易時代」に対し日本農業の維持と発展に向け、組合員皆様による食料の安定供給、競争力の強化をお願い申し上げます。JAグループ北海道、前JA北海道大会で掲げました、「北海道550万人と共に創る力強い農業と、豊かな魅力ある農村」の実現に向け取り組んで参りましょう。

また、当組合におきましても、「第9次地域農業振興計画」が5年目の最終を迎える年となりました。酪農畜産販売支払高120億円、農産販売支払高20億円、生乳生産12万トンの計画を掲げ、組合員皆様が邁進して参った結果、計画の達成は十分に可能な進捗を示しております。合わせて、『力強い地域農業』と『ゆとりと魅力ある農業経営』の実現を目指し、一層取り組んで参ります。

農業を取り巻く情勢は、今後も決して予断を許さない状況が続いておりますが、協

同の力を以て更に結集・團結し、組合員、JA、そして系統組織や関係組織・地域が一丸となり、大きな目標の達成に向け共に進んで参りましょう。

最後に、令和3年が組合員の皆様にとって、実り多い輝かしい一年となることをご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

監 事 藤 原 幸 一

常勤監事 河村俊彦

角屋貴之  
参事兼務理事

他職員一同

酪農部会長 田中伸一

畑作部会長 立川敏広

園芸部会長 高場得光

種子生産部会長 菊地繁雄

和牛生産  
改良組合長 岡本透

## 年頭のご挨拶

# 令和3年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会  
長  
小野寺 俊 幸

並以上の結果となり、生乳も前年  
の実績を超える生産となり、地域、  
作目によって違いはありますが概  
ね良い出来秋を迎えることが出来  
たと感じております。

しかしながら、昨年は、新型コ  
ロナウイルスとの戦いが長期化し、  
今までの日常とは大きく変化した  
1年であります。農業分野にお  
いても例外ではなく各種イベント  
の自粛、外食・中食の需要減少等  
の影響により、各作物の更なる需  
給緩和が懸念されているところで  
あります。

組合員並びに役職員の皆様には、  
コロナ禍にあってもその苦境にも  
負けず、日々営農に更に邁進され  
ておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社  
会の発展に向け、日頃より多大な  
ご尽力をされていることに対しても、  
改めて敬意と感謝を申し上げ  
る次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況  
指数が106の「良」、畑作物に  
ついては収穫時期に一部地域に降雨  
による影響が見られたものの平年

より道民の皆様に対し北海道農業  
から行動を起こすことで、農業と  
人、農村と都市、生産者と消費者  
の関係のあり方を見つめなおして  
いたくことを目的として「AG  
RI ACT ION ! HOKKA I

DO (アグリアクション北海道)」  
と題した情報発信を北海道の支援  
もいただき、スタートいたしました。  
「AGR I ACT ION ! HO  
KK A I D O」は次の3つのテー  
マを伝えることを目的としており  
ます。

① 食料自給率に対する理解促進  
と行動変容の喚起

② 農業には多様な働き方がある  
ということの周知とより多くの  
方が農業に携わっていただき、  
将来的に農業を仕事の選択肢と  
して考えてもらうこと（本業以  
外に副業として農業に親しむ人々  
を「パラレルノーカー」と命名）

③ 日頃から道産農畜産物を食し  
ている道民の皆様に感謝を伝え

ること

本年は第29回JA北海道大会の

実践最終年であることから、この  
取組みと協同の力を梃子として「農  
業所得の増大」「多様な担い手の  
確保・育成」「食と農とでつなが  
るサポートー550万人づくり」  
の目標達成に向けて、実践活動を  
強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑  
年です。牛は古くから酪農や農業  
で人間を助けてくれた大切な動物  
でした。大変な農作業を最後まで  
手伝ってくれる働きぶりから、丑

年は「我慢（耐える）」、「これか  
ら発展する前触れ」というような  
年になると伝えられております。  
この謂われにあやかり、新型コロ  
ナウイルスの1日も早い克服と皆  
様のご健勝、本年が豊穣の年とな  
りますようご祈念申し上げ、年頭  
のご挨拶といたします。



J A 大樹町青年部  
部 長  
半 谷 勇 人

酪農体験では、半谷牧場を見学してもらい搾乳施設や畜舎、牛の体、エサ等について説明し、その後、実際に哺乳と濃厚飼料の給餌を体験してもらいました。

農業体験では、尾田認定こども園内の保育園児を対象とした最後になりますが残り僅かな

## 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。組合員、盟友の皆様におかれましては、晴れやかな気持ちでよい新年をお迎えられたことお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスCOVID-19の影響により大半の行事が中止を余儀なくされ、行動を制限される中で何が行えるのかを模索する年となりました。そのような中、小学校からの要望もあり対策をとりながら小学校三年生を対象とした食育を行うことができました。本年度はジャガイモ、サツマイモ、豆類、ポップコーン用とうもろこし、キヤベツ、紫ブロッコリー、紫カリフラワー、白ナスと多くの

作物を作付し、実験的な作物や違う品種を作付することで色々な違いを感じてもらいました。初回こそ臨時休校により例年通りの授業内での植え付けを行うことは叶いませんでした

が、再開後の昼休みに豆類とサツマイモの植え付けを見学といふ形で行うことができました。

その後は、感染拡大が一時落ち

着いていたこともあり収穫作業、

ジャガイモやポップコーンの試食を行うことができました。収穫時期の違いや発芽の失敗など

で収穫の叶わなかつた作物もあ

りましたが、自ら育て食べるど

う体験を行えたことを嬉しく

思います。

10月には4月に行えなかつた

青婦部との交流会をバーベキュー

ーという形で行い、青年部が試

験的に栽培しているさつまいも

の試食も行いながら交流を深め

ることもできました。

## 体験するということを改めて大切に

園の参加は叶いませんでしたが、ほぼ例年通りのバター作りや模擬搾乳、トラクター試乗を用意した。初回こそ臨時休校により、子供たちに農業について楽しく体験してもらうことができました。

任期となり、このコロナ禍で行えることを模索しつつより多くの部員が楽しく活動できるよう次年度に繋がる活動を行っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 役 員

監 理	理 理	副 部	副 部	副 部
事 事	事 事	長 長	長 長	長 長
菊 森	下 前	半 阿	高 阿	松 阿
地 前	周 前	田 部	松 部	佑 部
陽 志	平 志	佑 真	佑 真	樹 真
介 斗	斗 斗	介 基	介 基	樹 基





大樹町農民協議会  
会長 水下英治

## 年頭のご挨拶

### 「世界的な感染症や自粛に 負けない忍耐と経営力」

新年あけましておめでとう  
ございます。

盟友の皆様には、ご家族と  
共に新年を迎えたことと  
心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイル  
スで始まり連日の報道に驚か  
れた事と思います。終わること  
とのない不安や先の見えない  
世界情勢、経済状況等、皆様  
の心情を心苦しく思います。  
酪農においては、多少の天  
候不順はあつたものの、良質  
な粗飼料と量を確保でき、酪  
農家の努力により堅調な伸び

畜産においては、値崩れが  
たようですが、農家や関係機  
関等の努力により少し持ち直  
したようです。

畑作に関しても量・品質共  
に良かつたようです。

当協議会においては、十勝・  
全道の盟友と共に活動を行つ  
ておりますが、新型コロナウ  
イルス感染症の影響で思うよ  
うな集まりが出来ず、リモー  
トでのやり取りで対応してい  
ますが、満足のいくものでは  
ありませんでした。

国際貿易協定においては、  
相次ぐ発効とコロナ禍の中の  
輸入動向が気になります。感  
染拡大により外国人旅行者の  
減少や不要不急の外出自粛で、  
農産物の需要減少を招きました。  
また、発効後における国  
内農業への影響を十分に検証

となりました。

することが難しい環境となつ  
ています。アメリカでは大統  
領選もあり、これからの日米  
の動向やコロナウイルスのワ  
クチン開発による国内外の動  
向も気になります。そういう  
動きにも注意しながら当協  
議会は、北海道農民連盟の一  
員として農家や農協、関係機  
関等の機能が損なわれないよ  
う強く求める活動を行つてい  
きたいと思います。

### 役員

会長	水下英治	地区執行委員 ／酪対委員長
副会長	瀬川嘉浩	税対委員長 (青申会長)
副会長	村崎隆一	税対委員
事務局長	猪飼敬司	畑対委員
常任委員	森田稔	酪対委員長
常任委員	鈴木輝彦	畑対委員長
常任委員	廣瀬洋司	酪対委員
常任委員	白取雄二	酪対委員
常任委員	村瀬正紘	酪対委員
常任委員	前崎卓也	税対委員 (青申副会長)
代表監事	鈴木和昭	税対委員
監事	水野敦	税対委員
監事	辻本洋平	畑対委員

今年は皆様にとつて良き年  
となりますよう、ご健勝とご  
多幸をご祈念申し上げ、新年  
の挨拶とさせていただきます。

## 青年部

# 第4回食育事業

## ー豆、とうもろこし、さつまいもを収穫ー



とうもろこしを手にする児童



さつまいもの蔓を処理する部員



さつまいもの収穫

10月26日に小学校農園場において、第4回目となる食育事業を行った。当日は、部員10名が参加し、豆（小豆、大豆、手亡、金時）とポップコーン用とうもろこし、さつまいもの収穫とポップコーンの調理を行った。

児童たちは、ポップコーン用とうもろこしを手に、さつまいもの収穫とポップコーンの調理を行った。半谷部長は「コロナウイルス感染症の影響により事業実施に不安があつたが、無事に収穫し調理することもできた。行事が中止されている中、児童に体験の場を提供できてよかったです」と挨拶した。今年度の食育事業を終えた。



収穫した色とりどりの豆

## 青年部

# 小学校酪農体験事業

## ー半谷牧場で酪農体験ー



ブーツカバーの配布



牛についての説明

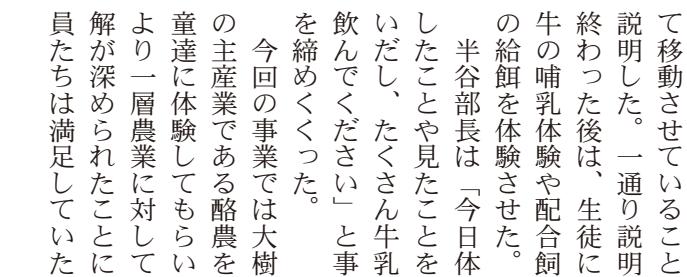
11月4日、半谷克幸牧場（中島農事組合）において、小学校3年生44名を対象とした酪農体験事業を行い、部員4名が対応した。

生徒を4グループに分け、1グループずつ搾乳施設で酪農作業について説明を行い、他の3グループは、哺育舎で牛について説明を行った。

搾乳施設では、パーラーでの牛の流れや搾乳機器、バルククーラーについて説明し、哺育舎では牛を群飼いし成長に応じて移動させていることを説明した。一通り説明が終わった後は、生徒に子牛の哺乳体験や配合飼料の給餌を体験させた。

半谷部長は「今日体験したことや見たことを思ひだし、たくさん牛乳を飲んでください」と事業を締めくくった。

今回の事業では大樹町の主産業である酪農を児童達に体験してもらい、より一層農業に対して理解が深められたことに部員たちは満足していた。



哺乳体験



搾乳施設の説明



哺乳について説明



哺乳体験

## 女性部 エルダーミセス 定例交流会



11月13日にJA会議室でエルダーミセス定例交流会が開催され、部員4名が参加した。

今回は、JA共済の「レインボーボディ操」をマスク着用で行った。部員達は生活環境の変化による運動不足を体操で解消した。

体操後は、お茶を飲みながら久しぶりに会った部員達の近況報告などを2時間ほど楽しく語り終了した。

次回は2月に行う予定。

## 農業経営塾2020



11月9日、JA大樹町において、11名の受講生が出席の下、第3回農業経営塾を行った。

午前の部は、経営相談課の川原課長補佐を講師に「組勘取引・農協取引の締結と意味」をテーマとした講義を行った。

講義では、組勘は1年間の短期資金で年末完全精算という特徴があることや営農計画書の作成から認定までの基本について説明を行った。

午後の部は農産部の高木部長を講師に「営農計画書を作成しよう！（農産部門）」をテーマに講義を行った。畑作物の直接支払交付金についての制度説明や交付金入金時期について説明があり、営農計画書を作成する上で、何年産の金額を収入として書き込むか説明があった。

## 新入職員紹介



おおとも たけ お  
大友 健生

**所 属** 事業部生産資材課  
**生年月日** 平成8年5月4日  
**出 身 地** 札幌市  
**前 職** ホクレン農業協同組合連合会  
**趣 味** バスケットボール・よさこい・麻雀  
**抱 負** 帯広畜産大学で農業について学んでおりましたが、現場では分からぬ事ばかりです。組合員の方々や上司、先輩から教わりつつ、自らも学ぶことで頑張っていきたいです。よろしくお願い致します。

## 大樹町和牛生産改良組合 大樹和牛・大樹産水産物即売会



大樹町和牛生産改良組合（岡本透組合長）では、10月31日、大樹町福祉センターにおいて大樹和牛・大樹産水産物即売会を大樹漁協と共に開催した。

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年販売を行っている家畜まつりや柏林公園まつりが中止となる中、町民の方々に大樹和牛の購入機会を作りたいと実施した。

今回販売された大樹和牛は、十勝育成牧場の1頭から、1,021パックを用意し、たくさんの来場者に購入いただいた。



たいき (10)

# 2021年は丑年



今年で12歳になるうし年キッズをご紹介します。  
ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



【石坂地区】  
宮嶋 祐津生ちゃん

弘幸さんの三女  
(H21.10.8生まれ)

将来はケーキ屋さんになりたいです。  
家庭科の授業を頑張りたいです。



【下大樹地区】  
三木 優花ちゃん

隆志さんの次女  
(H21.9.17生まれ)

将来は動物園の飼育員さん。  
動物に係わる仕事がしたいです。



【拓進地区】  
鈴木 健太くん

和昭さんの長男  
(H21.12.22生まれ)

農家を継ぎたいです！  
哺乳の手伝いを頑張ります。



【中島地区】  
戸枝 陽菜ちゃん

紘規さんの長女  
(H21.8.30生まれ)

将来は保育士になりたいです。  
今年はみんなでバレーボールをして遊びたいです。



【芽武地区】  
前田 栄哉くん

竜志さんの長男  
(H21.12.2生まれ)

ホームランを打ちたいです！  
野球を続けていきたいです。



【萌和地区】  
遠藤 真早希ちゃん

慎也さんの長女  
(H21.11.25生まれ)

将来は服飾デザイナーや動物関係  
(獣医・飼育員)のお仕事に就きたいです。



【萌和地区】  
片岡 奈々ちゃん

豪さんの長女  
(H21.11.7生まれ)

将来は有名人や歌手になりたいです。  
警察官にもなりたいです。



【萌和地区】  
井川 大智くん

潤さんの二男  
(H21.9.27生まれ)

将来は柔道のオリンピック選手。  
新規就農で牛を育てたいです！

令和2年11月

# J A ネットワーク十勝の動き

JAネットワーク十勝

J A ネットワーク十勝は本年6月に組織が改編され、山本勝博本部長（十勝農協連会長）をはじめとする18名の役員体制となりました。また、昨年までネットワーク事業であった十勝型G A Pの推進については十勝農協連が担い、ブランド事業についてはブランド戦略推進協議会を来年3月末で解散し、以降はネットワーク組織の枠組みのもと取り組むこととなりました。

本年度のネットワーク事業の推進状況について、下記のとおりご報告申し上げます。

## 1. 生産・販売の強化について

- 「十勝農業ビジョン2021」の農業生産額目標3,500億円は、2019年の管内農協取扱高が3,549億円（概算）となり、2年前倒しで達成しました。一方、今年は新型コロナウイルス感染症の流行により食糧の消費動向が大きく変容したほか生産現場における感染対策も大きな課題となっており、JAの対応について聞き取りを行っています。来年は次期ビジョンの策定作業に入りますが、新型コロナウイルス感染症との向き合い方が大きな課題となりそうです。
- 「十勝ごちそう共和国」ブランド事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により物販イベントが相次ぎ中止となったことから、広告・宣伝活動に予算を振り向け北海道新聞朝刊全道版への広告を実施したほか、管内ラジオ番組における広告宣伝を行っています。ホームページについては、JAの特産品を掲載し、そこから購入につながる仕組み（JAの通販・店舗情報のページにリンクをはる）を新たに追加しました。「ごちそう共和国通信」は第12号～14号の発刊を計画しています。

## 2. JA経営の強化について

- 平成22年度に策定しました「管内JA全体の経営戦略」に基づき、優秀な職員の確保・育成のために、専用ホームページによる管内JA職員採用情報の提供を行っています。

# JAグループ通信

JA北海道中央会



北海道教育委員会、北海道コンサドーレ札幌、北海道教育大学、JAグループ北海道の4者は、北海道の将来を担う子供たちが未来に向かってたくましく成長していくことを支援するため、子ども食堂の支援を行っています。しかし、コロナ禍において子どもたちが集まって食事をとることができないため、支援活動ができない状況が続いております。そこで、コロナ禍においても支援することを検討した結果、JAグループ北海道において、ACTION! HOKKAIDOの取り組みの一環として、食育動画を配信することいたしました。動画は3タイプあります。JAグループ北海道のホームページで公開しておりますので、是非ご視聴ください。また、お子様が動画を視聴していただき、保護者の方がアンケートに答えていただくと抽選で文房具のプレゼントがありますので、是非、こちらへの応募もお待ちしております！

①小学校低学年用  
『北海道の農業』



②小学校高学年用  
『食料自給率』



③中高生用  
『食料自給率』



●QRコード



●URL

<http://jadosanko.jp/supporter/movie/syokuiku/>

## JA北海道信連



北海道信連では、環境保全や地域美化の観点から、「NPO法人 北海道市民環境ネットワーク」が運営する「ラブアース・クリーンアップ運動 in 北海道」に参加し、事務所周辺の清掃活動を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に留意したうえで、札幌では10月に市の職員住宅周辺で実施いたしました。全道各支所においても、状況を見極めながら順次活動を実施しています。



## ホクレン



ホクレンは、会員JA・生産者向けに発行している営農情報誌「アグリポート」と連動した動画情報などを提供する「アグリポートチャンネル」を「YouTube」に開設しました。URLは以下の通りで、新型コロナウイルスの影響により今年は現地開催を見送った「ホクレンフィールドデー」のオンライン版動画などもアップしています。

<https://www.youtube.com/channel/UC4Dt4CyXyMsKSVtofG4dprw>



## JA共済連北海道



JA共済では、『自動車共済お見積りキャンペーン』を実施しております。インターネットに開設したキャンペーンWebサイトへご応募いただいた方の中から、抽選で総計12,000名様に家電などの素敵な賞品が当たります。キャンペーンは令和3年3月31日(水)までです。この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお待ちしております！

JA共済ホームページ  
アドレス  
<https://www.ja-kyosai.or.jp/>



## JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。秋号においてはプレゼント付アンケートのコーナーもございます。

是非、JA北海道厚生連のホームページをご覧いただきアンケートへのご協力をお願い致します。



JAグループ北海道の連合会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



# 年末・年始の組合業務

は営業日

月 日 部 門	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	年末仕事納め	年始仕事始め
	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
企画管理課										12/29 17:00	1/6 (水)
経営相談課										12/29 17:00	1/6 (水)
貯蓄共済課(貯金)										12/30 17:00	1/4 (月)
貯蓄共済課(共済)										12/29 17:00	1/6 (水)
酪農振興課										12/29 17:00	1/6 (水)
(生乳検査業務)						8:30~12:00				12/29 17:00	1/6 (水)
畜産販売課										12/29 17:00	1/6 (水)
生産改良課											
農産販売課										12/29 17:00	1/6 (水)
生産資材課										12/29 17:00	1/6 (水)
燃料課	セルフ給油所		17:00		8:30~17:00	8:30~17:00				12/31 17:00	1/2 (土)
	カーケンター	17:00								12/29 17:00	1/6 (水)
農機車両課										12/29 17:00	1/6 (水)

授精業務	12/31~1/3 の授精出動は午前 7 時30分より、授精受付は午前11時までとなります。											
生乳検査業務	12/31、1/3 の9時まで搬入したサンプルは体細胞・抗生物質共に当日検査 12/30、1/1・2・4・5 の午前9時まで搬入した分は、抗生物質検査のみ当日検査											
生乳集荷業務	平常どおり											
初生トク集荷	年末ご用納め 12/28(月)、年始ご用始め 1/6 (水)											
一般廃用買付	年末は、12/21(月)まで受付し、年始は、1/6 (水)から受付します。											
病畜処理場	年末ご用納め 12/25(金)受付 午前12時まで搬入、年始ご用始め 1/5 (火)											
レンダリングプラント	年末ご用納め 12/30(水)受付 午前9時まで、自搬入は12時まで 年始ご用始め 1/5 (火) 死亡畜発生の都度FAXで申込 (☎0155-37-4623 北海道環境衛生社)											
燃料課	セルフ給油所	年末ご用納め 12/31(木)午後5時、年始ご用始め 1/2 (土)・3日(日) 午前8時30分から午後5時まで営業										
	カーケンター	年末ご用納め 12/29(火)午後5時 [ピット作業28日(月)まで] 年始ご用始め 1/6 (水)午前8時30分から										

## 理事会の動き

**第10回 11/15**

★付議事項

第1号 役員の逝去について  
協議・承認

★付議事項  
第1号 弔慰金の支出について  
協議・承認

**第11回 11/24**

★付議事項

第2号 固定資産の取得について  
協議・承認

第3号 出資の持分譲渡について  
協議・承認

第1号 令和3年度営農の取組  
について  
協議・承認

★報告事項  
第1号 令和2年度大樹町乳  
質改善事業反則金の使途  
について  
協議・承認

第2号 常任委員会の報告  
について  
協議・承認

第3号 令和2年度産地生産基盤  
について  
協議・承認

第4号 令和2年度産地生産基盤  
について  
協議・承認

第5号 農産物集荷状況について  
について  
協議・承認

第6号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第7号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第8号 農産物集荷状況について  
について  
協議・承認

第9号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第10号 農産物集荷状況について  
について  
協議・承認

第11号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第12号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第13号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第14号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第15号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第16号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

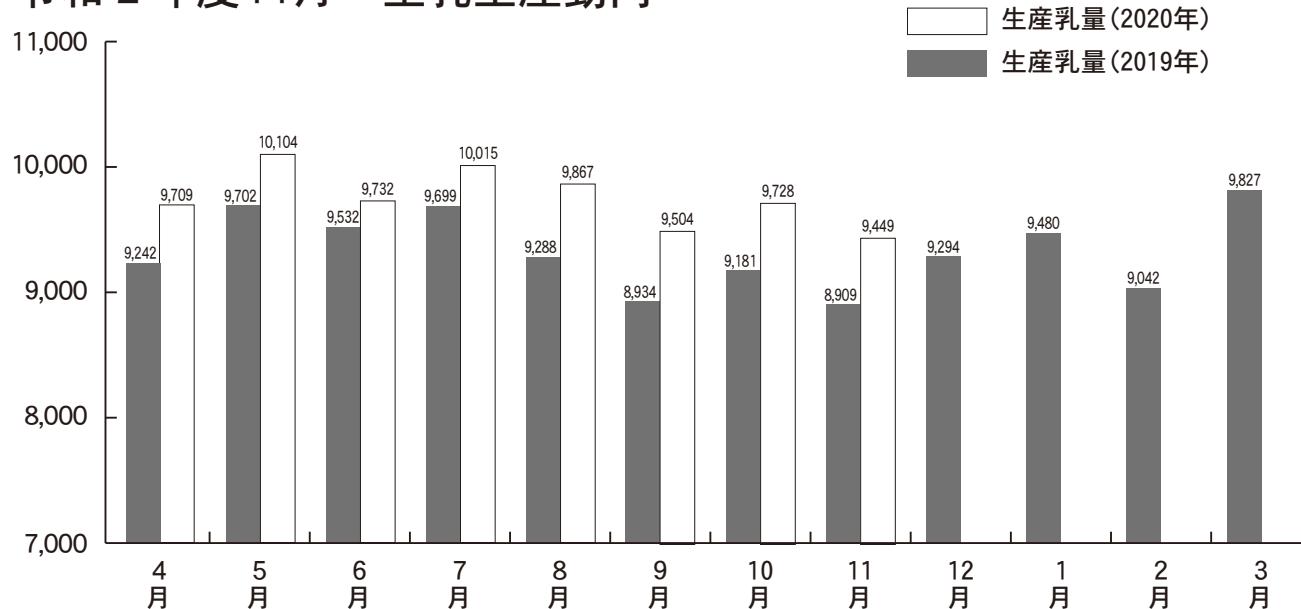
第17号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第18号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

第19号 令和2年産大根の本精算  
について  
協議・承認

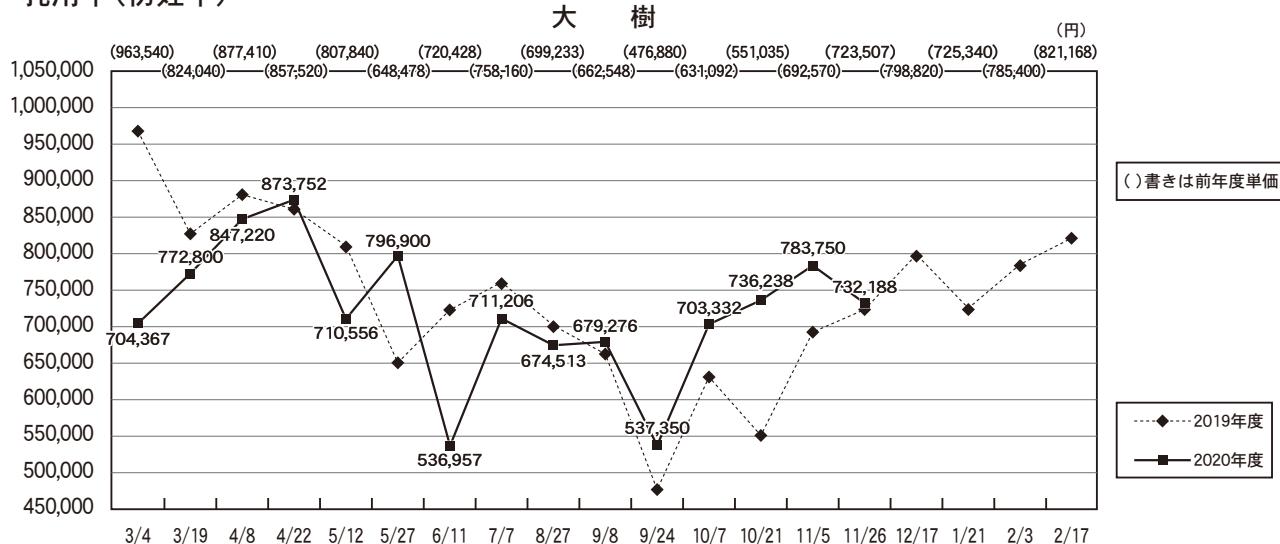


## 令和2年度11月 生乳生産動向

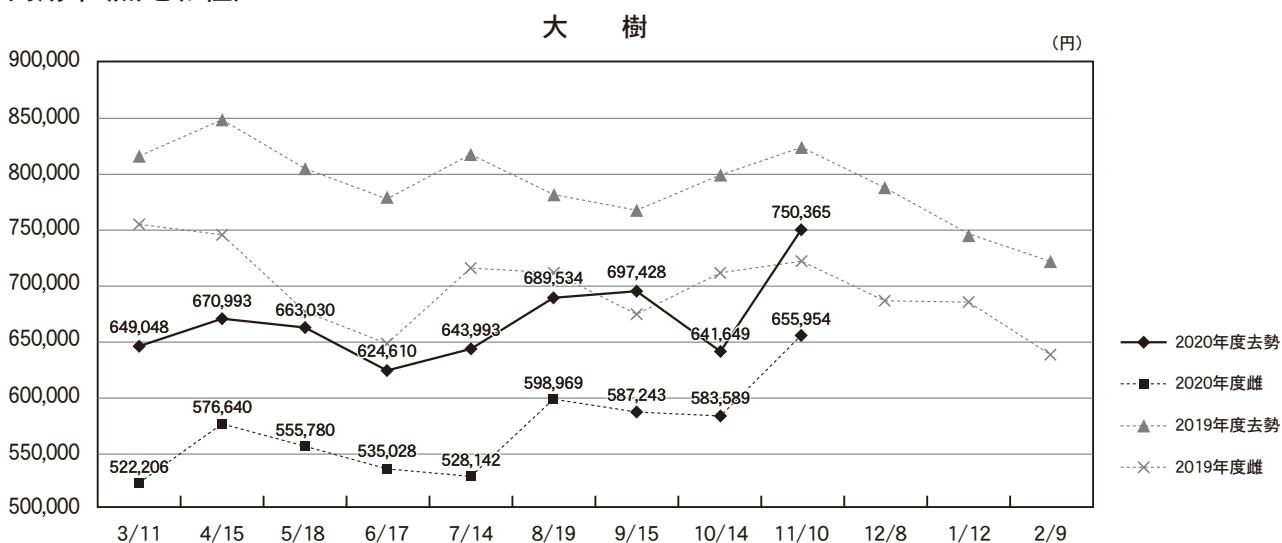


## 家畜市場の成績

### 乳用牛(初妊牛)



### 肉用牛(黒毛和種)





## 未来を拓く協同組合 教えて! 日本農業

## 未来を拓く協同組合



監修=JCA(日本協同組合連携機構)



## スマート農業

ドローン(小型無人飛行機)やロボット、人工知能(AI)などの最新技術を駆使した「スマート農業」が注目を集めています。すでに、自動走行トラクターを用い、限られた作期の中で一人当たりの作業可能面積を広げ、働き方を改革する農業者が現れています。

スマート農業は、担い手の減少や高齢化の進行による労働力不足、熟練農業者のノウハウの継承といった課題を解消し、農業のやり方を大きく変えるのではないかと期待されています。全国のJAもスマート農業を推進。農業者の導入を支援したり、自ら活用したりするJAの数は2019年度で168JAに上ります。

無人トラクターで畑を起こし、ドローンで農薬を散布、スマートフォンで農作物の生育を確認しながら、自宅で水田の給水栓を操作する——。夢のような農業の実現に向けて、JAも動き始めています。

## スマート農業の効果

## ①作業の自動化

ロボットトラクター、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に

## ②情報共有の効率化

位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に

## ③データの活用

ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病害虫を予測し、高度な農業経営が可能に

農水省資料より作成

## &lt;事例&gt; ドローンによる省力化で規模拡大を実現

JA香川県は農薬散布用ドローンの導入に対する助成事業を創設し、農業者の作業省力化や規模拡大を後押ししています。作業面積は導入前の139haから105ha増の244ha(75%増)に達しました。



JA全中「JAグループの活動報告書2019」より作成

耕そう。大地と地域のみらい。

## イラスト・情報コーナー

イラストは濃くていねいに書いて下さい。  
(あまり薄いと掲載出来ないことがあります。)



拓進  
おかもと はなちゃん(6歳)



下大樹  
ゆ あちゃん(5歳)



下大樹  
ひなかちゃん(4歳)



振別  
角倉 七虹ちゃん(9歳)



拓進  
すずき はるかちゃん(8歳)